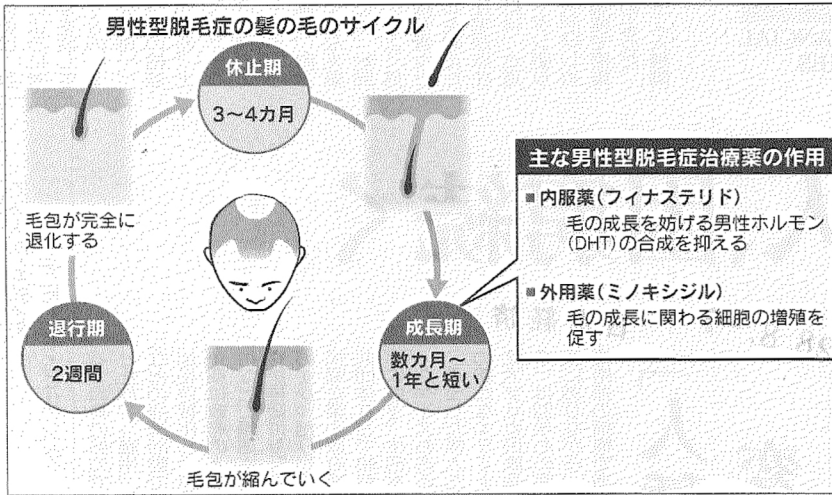
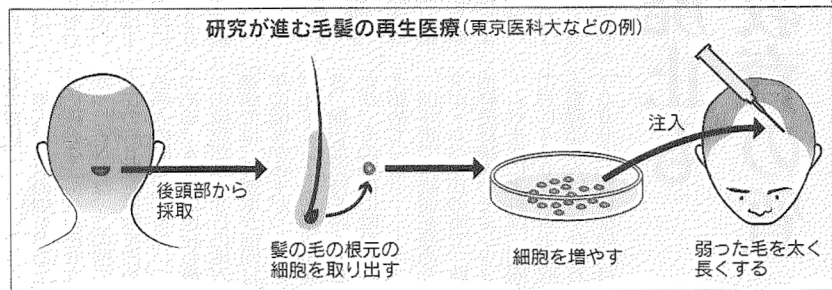


遺伝性の男性型脱毛症 あきらめず



投薬 成長止める物質 抑制 移植 細胞注入、再生めざす



男性型脱毛症は、思春期以降に増える男性ホルモン「テストステロン」が関与している。血中を巡るテストステロンが毛乳頭の細胞に入ると、細胞内の酵素の働きで「DHT」という別のホルモンになる。これが、毛乳頭の細胞の中にあるたんぱく質(受容体)とつながると、毛母細胞の分裂を止める「TGFβ」という物質が作られる。髪の毛は細胞の分裂や成長が盛んな成長期、細胞の分裂が衰える退行期、髪の毛の成長が止まる休止期という周期を2～6年の期間で繰り返す。男性型脱毛症はTGFβの働きで、成長期の毛髪が退行期に移るのが早く、髪の毛を維持する期間が数カ月～1年と短くなる。

日本皮膚科学会の「男性型脱毛症診療ガイドライン(2010年版)」は、発症原因の例に遺伝子の個人差や疾患関連遺伝子の存在などを取り上げる。最も推奨する治療法には内服薬の「フィナステリド」と、外用薬の「ミノキシジル」を挙げる。内服薬は酵素に働きかけてDHTができるのを抑え、脱毛の原因を取り除く。外用薬は毛の成長に関わる細胞の増殖を促す。

北里大学特任教授で東京

だが、髪の毛が薄くなったときに「現状を維持して年齢を重ねよう」と願えば、前向きになれるかもしれない。髪の毛が薄くても自分を美しく見せる方法はある。専門家は「患者自身でゴールを設定することが大切だ」と助言する。

00万個に増やし、毛が薄くなった部分に移す。細胞から出るたんぱく質が頭皮の中に埋もれた毛包の動きをよみがえらせ、太い髪の毛を伸ばす。研究は男女60人で予定している。

東京医科大学の坪井良治教授は「薬で治療が難しい人にも効果を示す可能性がある」と期待する。

毛を生やす毛包自体を再生させる研究も進む。理学化学研究所は京セラと共同で患者から採った頭皮の細胞から、毛包のもとになる組織を大量に作り移植する治療法を開発する。2種類の細胞を培養し、毛包に変える。マウスの実験では毛が生えた。20年までに北里大学で人の研究を目指す。

健康な毛包の細胞がない患者のために、iPS細胞から毛包を作る研究を進める慶応大学などのチームも臨床応用を目指している。

男性型脱毛症は生まれつきの体質が大きく関わる。ただ、生活習慣が乱れると症状が進む場合がある。きちんと睡眠をとり、食生活では亜鉛やビタミンなどの栄養をバランスよく摂取する。治療と合わせて生活習慣にも気を配ることが大切と専門家は指摘している。

(荒牧寛人)

20～40代の毛活 早めに

20～40代の男性を中心に発症するのが男性型脱毛症だ。若いころから頭頂部や生え際の毛が薄くなる。老化とは違って遺伝や男性ホルモンの働き具合が原因で、日本人男性の3割が悩んでいるという。脱毛を抑える新薬が登場しているほか、頭皮の細胞を移植して毛髪を再生する臨床研究も7月に始まった。予防は難しいとされ、気になる症状があれば早めに専門医に相談したい。

東京都に住む20代後半の男性は大学を卒業して2年たったころに髪の毛が細くなってきたのに気づいた。4年間放っておいたら、頭頂部に地肌が現れ始めた。「人と比べて毛が細く、と打ち明ける。」

男性型脱毛症の多くは20～40代の男性で発症し、徐々に進行する。早い人では10代に発症する。毛髪研究が専門の大阪大学の板見智教授は「老化で起きる脱毛症とはメカニズムが根本的に異なる」と話す。60代以降に発症する「老人性脱毛症」は頭髪全体が細くなるが、男性型脱毛症は髪の毛の生え際と頭頂部の毛が局所的に薄くなる。額と頭頂部で同時に始まる人もい

男性型脱毛症は放置しても健康を損なうわけではないが、早い段階で自覚すれば行動をとりやすい。症状は徐々に進行していく。自覚しにくいのが難点だが、日常生活でも早めに気づくポイントがある。まずは抜け落ちた毛髪の状態を同時に始まる人もい

男性型脱毛症は、思春期以降に増える男性ホルモン「テストステロン」が関与している。血中を巡るテストステロンが毛乳頭の細胞に入ると、細胞内の酵素の働きで「DHT」という別のホルモンになる。これが、毛乳頭の細胞の中にあるたんぱく質(受容体)とつながると、毛母細胞の分裂を止める「TGFβ」という物質が作られる。髪の毛は細胞の分裂や成長が盛んな成長期、細胞の分裂が衰える退行期、髪の毛の成長が止まる休止期という周期を2～6年の期間で繰り返す。男性型脱毛症はTGFβの働きで、成長期の毛髪が退行期に移るのが早く、髪の毛を維持する期間が数カ月～1年と短くなる。

定期的に観察するとよいだろう。他人から指摘されて自覚することもある。身近な家族や友人に教えてもらえらるうちに、自分から声をかけて良い関係を築いていく。悩みの程度は人それぞれだが、髪の毛が薄くなったときに「現状を維持して年齢を重ねよう」と願えば、前向きになれるかもしれない。髪の毛が薄くても自分を美しく見せる方法はある。専門家は「患者自身でゴールを設定することが大切だ」と助言する。

00万個に増やし、毛が薄くなった部分に移す。細胞から出るたんぱく質が頭皮の中に埋もれた毛包の動きをよみがえらせ、太い髪の毛を伸ばす。研究は男女60人で予定している。

東京医科大学の坪井良治教授は「薬で治療が難しい人にも効果を示す可能性がある」と期待する。

毛を生やす毛包自体を再生させる研究も進む。理学化学研究所は京セラと共同で患者から採った頭皮の細胞から、毛包のもとになる組織を大量に作り移植する治療法を開発する。2種類の細胞を培養し、毛包に変える。マウスの実験では毛が生えた。20年までに北里大学で人の研究を目指す。

健康な毛包の細胞がない患者のために、iPS細胞から毛包を作る研究を進める慶応大学などのチームも臨床応用を目指している。

男性型脱毛症は生まれつきの体質が大きく関わる。ただ、生活習慣が乱れると症状が進む場合がある。きちんと睡眠をとり、食生活では亜鉛やビタミンなどの栄養をバランスよく摂取する。治療と合わせて生活習慣にも気を配ることが大切と専門家は指摘している。

(荒牧寛人)